



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

無駄な過去はない

「体のマヒを超えて」(教育テレビ・この時代の)という対談番組をたまたま見るご縁に恵まれました。七十代近い女性が車椅子に座ったまま、時折微笑みを交えて話をされている穏やかな姿に引き込まれたのです。

その方は、エッセイスト(随筆家)という肩書きをもつ福島県会津美里町に住む大石邦子さん。二十二歳の時、通勤するバスが急停車して乗客が将棋倒しになり、その時の傷害で下半身、左半身マヒの身になりました。青春時代真っ只中で襲われた苦しみです。「どうして私だけがこんなことに...」と事故をうらみ、自分自身を恨み、未来を絶たれたと思うのも無理はない。両親をはじめ、友人たち多くの人々が彼女を見舞い、励ましてくれたがそれは全く、「みじめ」でしかありませんでした。

全く身動きできない闘病生活が四年以上経った頃、「歌を詠む」ことを勧められ、学生時代に「短歌の感想文」で誉められた過去を思い出しました。「歌などとても...」とためらいつつ、「親不孝の自分ではあるけれど、この無念さがあるのまま両親に書き残していこう」と思い立ち、短歌や随想を書くようにな

精一杯生きよ

りました。それが雑誌に取り上げられ、共感する手紙が段ボール箱一杯に届けられ、僅かな光が差ししてきました。

「他人と比べるから苦しいのだ」「無駄な過去などないのだ」と勇気を与えられた。その後、二度もガンの手術を受けたが、若い頃受けた激しい痛みを乗り越えた経験が糧となり、苦しみから逃げずに受け入れていくことのできる術を身につけるようになりました。

今は両親にも死別され、勿論生涯独自の身。しかし、そんな寂しさや不安感を感じさせない微笑がこぼれていました。苦悩を乗り越える力の源泉は何なのか?今は亡き両親に八つ当たりして、苦しませながらも見放すことなく、「精一杯生きよ」と慈愛で支えてくれた親心がこの人を生かす力となったことを忘れてはならないと思います。

慈悲に三縁ある。それは衆生縁(小悲)、法縁(中悲)、無縁(大悲)の三つだと曇鸞大師は説かれました。親心は子供の苦悩を他人事と思えぬ「悲の心」ですが、その背後に法縁が働き、分け隔てなく衆生を包み、導き給う「無縁の大悲」(阿弥陀さまの心)が働いてくださいます。

☆行事ご案内☆

春季永代経

3月16日(土)午後1時半・夜7時半
17日(日)午後1時半

講師:稲葉芳道先生(奈良県吉野郡・法泉寺住職)
初めてのご縁、有難くも魅力的な先生です。ご期待下さい。

◇キッズサンガ

3月2日(土)午後4時より『集い』お経、ゲーム等
6年生2名の卒業式もあるよ。毎日5時の鐘つき誰でも可

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見られます。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。

開設4年7ヶ月で10万訪問突破、一日平均100ほど、コメント大歓迎、一面お問い合わせ欄よりのメールや悩み相談には即返信します

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ
お電話を!5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

◇三重組コーラス 3月25日(火)午後1時半、西勝寺様にて

- ◇3月20日夜7時 三全仏教婦人会総会 善正寺で
- ◇3月13日午前・午後 三重組十三日講 常德寺様で
- ◇3月27日(水)2時 名古屋芸創で『萌木の響き』発表会



りょうじ 亮爾(11ヶ月)と いつき 樹(1ヶ月)



できた、できた、桜餅が!



猛吹雪の朝、垂坂山展望台

「無駄な過去はない。精一杯生きよ」という励ましは、親心と共に、大慈悲心に導かれているのです。三月はお彼岸の季節、親心と共に仏様の心を思い起こしてお念仏申しませう。



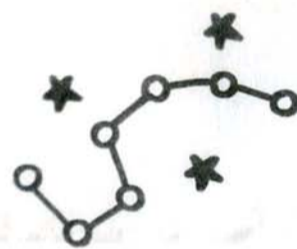
次男夫婦の子・樹です



カメラのキャップもおいしい

坊守スケッチ

辛い時は星座を見つけよう



冬の夜明け前の星は一番美しい。空気が澄みきって凜とした中で、東の空にひととき瞬く金星。オリオン座、北斗七星、満天の星空に私は星座を見つけたのが好きだ。まだ真つ暗な中、早起した者だけに与えられる特典だ。

古代人達は星空を眺めて、夢を語り合った。単に星空を眺めているだけではなく、沢山ある星の中に、ある特定の星をつなぎ合わせて、ある形がすつと出来る。そこに意味を持たせて物語を作る。これって人生にとっても共通することではないだろうか？

心理学者の河合隼雄氏は著書の中で面白いことを語っている。

「私の元にたくさんの悩みを抱えた人が来られる。この人たちは今直面している問題や悩みごとだけに気持ち奪われ、視野が狭窄的になっている。やがて身動きが取れなくなり、ますます気持ち暗くなつて展望が開けない。そこから離れて、もう一度ポイントと眺めることで、何かが見えてくる。すると『ああ、そうなのか』と腹に落ちる。自分は今まで決まりきった考え方をしていた。一流大学に入って一流企業に就職できた。幸せになれると思っていた。しかし人生にはそれより

ももっと大切なものがあるだと気付かされた。人生にも、星座のあり方のようにぐるりと変わる瞬間がある。その時にちゃんと見ているかどうか？見損なうと新しい星座は見えて来ない。星座を見つけないことは、物語を作ること。人生の物語、私だけの物語を生きたがら紡いでいこう」

河合先生の話聞いて、私は目からウロコだった。私たちは目先の悩みを解決することだけに躍起になる。それが解決すると、喉元過ぎれば熱さを忘れるが如くケロッとしている。しかしその時に、その苦労も決して無駄な経験ではなかった、次へのステップのバネになったと思える時、私だけの新しい物語が一つ出来る。

只今受験シーズン真つ最中。受験生を抱えたご家庭ではさぞ心配なことだろう。志望校に合格すればラッキーだが、不合格に終わっても決して悲観することはない。今は悲しみのどん底にいても、あなたを気遣ってくれる両親や友達や先生もいるではないか！周囲を見渡せば、あなたを支えてくれる人がいっぱいいるではないか！今の苦しみはこれに気付かせるための一つの出来事だったと思えるとき、次の人生が拓けていく。人生で出会っ

ていく喜びや悲しみ、悩みや苦しき、あらゆる現象が一つの点ではなく、点と点がつながる時、あなただけの人生の物語が生まれる。「生きる意味を見つけない」とは、満天の星空に星座を見つけないように、私だけの物語を作っていくことではないかなあと思う。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆亮爾ちゃん 門徒の視線

☆若松と 雑種の菊と 南天も

添えて結わえる 巳年の仏花

(御法楽詠進歌応募作品)

☆大遠忌 左手に数珠の 幼子は

慈母に寄り添い 弥陀のみに

四日市市 Y・Y

☆激寒に 献血依頼の 電話鳴る

古希の身の上 喜ばしいかな

小三重組コーラス

☆練習・ 智積西勝寺様 午後1時半

3月25日(月)

キッズサンガ・杉の子合唱団

夕方5時の鐘つきは年中無休。ご褒美

当り付きガム。誰でも撞けるよ

☆3月2日(土) 4時 お経ゲーム他

6年生の智夏ちゃん、朱音ちゃんの卒業式。卒業おめでとう！保育園時代から8年間通ってくれてありがとう。

☆『善正寺だより』がパソコンで見られます。HPのトップ画面の左欄「善正寺だより」をクリック。ファイルを開くと過去一年分が見られます。郵送してない方にもぜひおすすすめ下さい。

ホットニュース

☆毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が2月10日、ついに10万アクセス達成！これも皆様の応援のおかげです。私は毎朝4時半起床、頭がまだ真つ白の中、前日の記憶を頼りに日々の記録を投稿。その後垂坂山へ約2時間の散歩とラジオ体操をするのが日課です。

☆カンパ有難う☆

松田ひろみ様(大林ゆきの様)・他匿名様より頂戴しました。感謝！

【平成25年度今後の善正寺行事予定】

※3月16(土)午後1時半・夜7時半

・17(日)午後1時半『春季永代経』

講師稲葉芳道師(奈良)(初)

※5月19日(日)午前総会・午後「公開

法座」講師末本弘然師(大阪)(初)

※8月24(土)・25(日)『秋季永代経』

講師足利孝之師(尼崎)

※9月22日(日)午前・午後『小杉町仏

教会追悼法要』講師鎌田宗雲師(滋賀)

※11月2日(土)午後・夜3日(日)午

前『報恩講』講師藤大慶師(京都府)

※11月23日(土)午前秋勧進

※12月7日(土)夜『お内仏報恩講』

※12月31日夜11時45分除夜の鐘

◇その他、毎月第3日曜日夜7時半より『門信徒会例会』

☆編集子より☆

「善正寺だより」第二三二号をお届けします。◇春は名のみ風の寒さ、ですね。しかし自然界は春の準備中。他と比べず、精一杯生きていきたいですね。合掌

「優先席ゆっくり座れる歳にやうし先日電車で高校
生から席を譲られました。以前はちよつとでも空いた席
を探していた私でしたがいざ譲られると複雑な心
境です。実年齢より若く見られたら嬉しいが、
老けて見えたら悲しい。実に女心は微妙です。ある
日電車内で隣に座った女性から突然声をかけら
れました。「〇〇さんではありませんか？」私の旧姓で
尋ねます。「どちら様でしょうか？」と怪訝な顔を
すると「中学時代同じクラスだった△△です」「えっ、
△△ちゃん」と飛び上がらんばかりに驚きました。旧
友と48年ぶりにバッタリ出会ったのです。二人はたら
まら48年前にタイムスリップしておしゃべりた花が咲
きました。私の顔は中学時代と変わってないと喜ぶ
べきか？昔から老け顔だったと理解すべきか？いず
れにしても嬉しい再会でした。亡き先代住職は
ツルツル頭だったせいか年齢よりずっと老けて見ら
れました。それに苦労を重ねた人生だったので困そ
うる人たは人一倍優しく、顔にその柔和さがにじみ出
ていました。「人間は外見よりも中身が大事、他人からど
う見られようとも自分の顔に自信と責任を持ってし
ていっていいよ。私も見習って生き生きと年齢を重ね
ぬたいと思います。三月は十六(まご十七(まご)と永代経、
二十日(永)夜は三全仏教婦人会総会です。皆様のこ参
詣を心よりお待ち申しあげます。 合掌

平成二十五年三月

善正寺坊守拝